東日本大震災
被災地支援

３月11日に発生した東日本大震災。地震だけでなく巨大な津波が起こり一瞬にして尊い命と財産、人々の生活を奪い去りました。津波の後に残されたのは、がれきの山。被災地の人々は５カ月を過ぎた今もなお過酷な状況の中で生活しています。

今、わたしたちにとって何ができるのか。多くの義援金が集まり、人的支援活動も行われています。今回は、県派遣団の一員として活動を行った町職員１名の活動状況を紹介します。

住吉（すみよし）　勝徳（かつのり） さん

（役場　建設課）

●熊本県派遣職員第17陣

●派遣地域　宮城県東松島市

●派遣期間　７月10日～21日

今回、東日本大震災に伴う被災地支援として、熊本県派遣職員第17陣の一員として宮城県東松島市で、７月10日から７月21日までの間、行政支援業務等を行ってきました。東松島市でも、震災により沿岸部を中心に壊滅的な被害を受けており、死者約1，000人、行方不明者約100人となっております。

熊本県チームは、市役所内の行政支援業務を行い、私は、り災証明・被災証明記入指導業務を行い、申請に来られた住民の方々に被災状況等を聞きながら記入指導を行っていました。被災状況は家屋の全壊・半壊、車の流失等が多い現状でした。

被災証明については高速道路の無料化や自動車重量税の減免等があり申請件数が1日150件程度ありましたがピーク時に比べて減少してきています。

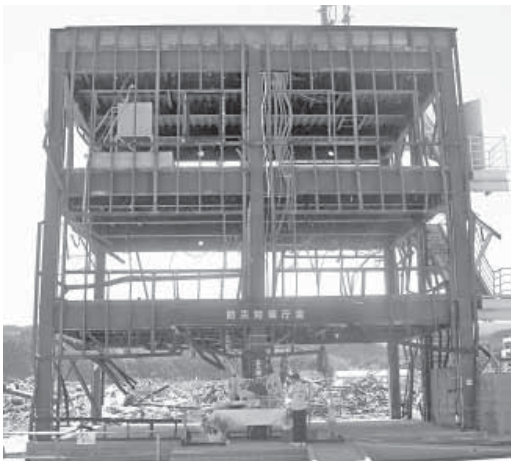
その様な中で、被災者の方々の話を聞くと、「家族を亡くし、家も無くなり全て失った。今後の生活は不安な事ばかりだ。しかし、色々考えても仕方が無い。今は、1日でも早く復興できるように精一杯頑張っている。」等の前向きな言葉を聞き感動しました。

また、仮設住宅建設も8割程度は完成し、順次入居が始まっていますが、未だに避難所で生活されている方々もおられます。そして、被災地には大量の瓦礫等が残っており現場を自分の目で見て言葉が出ず胸が詰まる思いになり自然と涙が溢れ、今自分に何ができるのだろうかと毎日考えていました。

今回の被災地支援業務は、私にとって貴重な経験をし、一瞬で家族全員を失う津波の恐ろしさを知ることとなりました。そして、人の強さや絆の深さを感じ、改めて家族の大切さを実感しました。

最後に、被災地の復興までどれくらい月日がかかるか分かりませんが、今私たちにできる事はこの大震災を忘れることなく、1日でも早い復興を願うことだと思います。この経験を今後の仕事に生かして生きたいと思っています。

さらに、この支援業務に協力していただいた同僚、上司や家族に本当に心から感謝しております。



▲南三陸町の防災対策庁舎跡